

# Veritas System Recovery Disk ヘルプ

---

## コンピュータのリカバリについて

Windows が起動しない、または正常に動作しない場合でも、コンピュータをリカバリできます。Veritas System Recovery Disk と利用可能なリカバリポイント、またはリカバリポイントから作成した仮想ディスクを使うことができます。

**注意:** Windows を起動でき、復元するドライブがオペレーティングシステムドライブ以外のドライブの場合、Windows 内からドライブを復元できます。

Veritas System Recovery Disk を使ってリカバリ環境を実行し、一時的に Veritas System Recovery 22 のリカバリ機能にアクセスできます。たとえば、Veritas System Recovery 22 のリカバリ機能にアクセスしてコンピュータを再起動し、以前の使用可能な状態にできます。

## Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) ベースのコンピュータのリカバリについて

Veritas System Recovery Disk を使うと、UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) 標準を使うコンピュータをリカバリできます。ただし、UEFI ベースのコンピュータをリカバリする場合は、次の点を考慮してください。

- 64 ビット版の Veritas System Recovery Disk を使って UEFI ベースのコンピュータを起動する必要があります。
- UEFI ベースのコンピュータをブートする場合、システムドライブとブートドライブが GPT ディスクに存在することを確認してください。同様に、BIOS ベースのコンピュータをブートする場合は、システムドライブとブートドライブが MBR ディスクに存在する必要があります。
- UEFI ベースのコンピュータのブートパーティションとシステムパーティションのバックアップは BIOS ベースのコンピュータにリストアできません。UEFI ベースのコンピュータのバックアップは、GPT ディスクにリストアする必要があります。同様に、BIOS ベースのコンピュータのブートパーティションとシステムパーティションのバックアップは UEFI ベースのコンピュータにリストアできません。BIOS ベースのコンピュータのバックアップは、MBR ディスクにリストアする必要があります。

**注意:** Veritas System Recovery Disk を使用してコンピュータをリカバリするときに、バックアップのファームウェアの種類が表示されます。バックアップのファームウェアの種類に応じて、バックアップを GPT または MBR のいずれか適切なディスクにリストアします。

- コンピュータが UEFI と BIOS の両方のファームウェアをサポートし、バックアップを UEFI モードで実行した場合は、UEFI ファームウェアを使用してコンピュータを開始する必要があります。
- UEFI ベースのコンピュータをリカバリする場合は、[コンピュータを修復] ウィザードの [ターゲットドライブとオプションを編集] パネルの次のオプションは選択しないでください。
  - **ドライブをアクティブ (OS ブート用) に設定**
  - **マスターブートレコードのリストア**: これらのオプションは MBR 形式のディスクにのみ適用可能です。GPT 形式のディスクには適用できません。
- UEFI ベースのコンピュータをリカバリする場合は、まず EFI システムパーティションをリストアする必要があります (存在しない場合)。
- UEFI ベースのコンピュータをリカバリする場合は、空の MSR パーティションが作成されず (存在しない場合)。
- UEFI ベースのコンピュータのブートボリュームとシステムボリュームはダイナミックディスクにリカバリできません。

## Veritas System Recovery Disk を使ったコンピュータのブート

Veritas System Recovery Disk を使うと、Windows オペレーティングシステムを実行できなくなったコンピュータをブートできます。Veritas System Recovery 22 を使用してリカバリディスクを作成できます。Veritas System Recovery Disk を使ってコンピュータをブートすると、簡易バージョンの Windows が起動し、リカバリ環境を実行します。リカバリ環境では、Veritas System Recovery 22 のリカバリ機能にアクセスできます。

**注意:** Veritas System Recovery Disk を実行するには、最小 1.5 GB の RAM が必要です。コンピュータのビデオカードがコンピュータの RAM を共有するように構成されている場合は、1.5 GB を超える RAM が必要な場合があります。

Veritas System Recovery Disk を使用してコンピュータをブートするには

1. USB デバイスにリカバリポイントを保存する場合、まずデバイス (外付けハードディスクドライブなど) を接続します。

**注意:** コンピュータを再起動する前にデバイスを接続してください。接続しないと、Veritas System Recovery Disk でデバイスが検出されない可能性があります。

2. USB デバイスにある Veritas System Recovery Disk をメディアドライブに接続します。Veritas System Recovery Disk が DVD にある場合は、コンピュータのメディアドライブに挿入します。

リカバリ環境がコンピュータのハードディスクドライブにすでにインストールされていることがあります。コンピュータを再起動した後、コンピュータ画面に指示が表示されるのを待ちます。

3. コンピュータを再起動します。USB デバイスまたは DVD からコンピュータを起動できない場合、コンピュータのスタートアップ設定の変更が必要となる場合があります。
4. **【任意キーを押して DVD または USB デバイスからブートしてください】** というメッセージが表示されたらすぐに、いずれかのキーを押して Veritas System Recovery Disk を起動します。

**注意:** このメッセージを見逃さないように注意してください。メッセージは、表示されてから短時間で消えてしまいます。このメッセージを見逃してしまうと、再度コンピュータを起動しなければなりません。

5. ライセンス契約に目を通し、**【同意する】** をクリックします。同意しない場合は、Veritas System Recovery Disk を起動できません。コンピュータが再起動します。

## USB デバイスまたは DVD からコンピュータを起動する設定

Veritas System Recovery Disk が USB デバイスまたは DVD にある場合があります。したがって、Veritas System Recovery Disk を実行するには、USB デバイスまたは DVD を使用してコンピュータを起動する必要があります。

USB デバイスまたは DVD から起動するようにコンピュータを設定するには

1. コンピュータを起動します。
2. コンピュータが起動したら、画面の一番下に表示される、BIOS/UEFI セットアップへのアクセス方法を通知するプロンプトを確認します。通常は、**Delete** キーまたはファンクションキーを押して、コンピュータの BIOS/UEFI プログラムを起動する必要があります。
3. **【BIOS/UEFI セットアップ】** ウィンドウで **【起動シーケンス】** を選択し、**Enter** キーを押します。
4. 画面上の指示に従い、USB デバイスまたは DVD を、リストの最初の起動デバイスとして設定します。
5. USB デバイスにある Veritas System Recovery Disk をメディアドライブに接続します。Veritas System Recovery Disk が DVD にある場合は、コンピュータのメディアドライブに挿入します。
6. 変更を保存し、BIOS/UEFI セットアップを終了して、新しい設定でコンピュータを再起動します。
7. 任意のキーを押して、Veritas System Recovery Disk を起動します。Veritas System Recovery Disk USB デバイスまたはドライブにある DVD からコンピュータを起動するとき、**【任意キーを押して DVD または USB デバイスからブートしてください】** という

メッセージが画面に表示されます。5 秒以内にキーを押さないと、コンピュータは次の起動デバイスからの起動を試みます。

**注意:** コンピュータの起動時には注意して画面を確認します。プロンプトを見逃した場合は、コンピュータを再起動する必要があります。

## ハードディスクのエラーを調べることでコンピュータのリカバリを準備

ハードディスクの損傷が疑われる場合は、エラーを調べることができます。

ハードディスクのエラーを調べてコンピュータのリカバリを準備するには

1. Veritas System Recovery Disk を使ってコンピュータをブートします。
2. Veritas System Recovery Disk の [分析] パネルで [ハードディスクのエラーをチェック] をクリックします。
3. 確認するドライブを選択します。
4. 次のいずれかのオプションを選択します。
  - **ファイルシステムエラーを自動的に修正:** 選択したディスク上のエラーを修正します。このオプションを選択しなければ、エラーは表示されますが、修正されません。
  - **不良セクタの検出と修復:** 不良セクタを検索し、読み取り可能な情報をリカバリします。
5. [開始] をクリックします。

## Veritas System Recovery Disk を使ったコンピュータのリカバリ

リカバリするハードディスクドライブに対応するリカバリポイントがある場合、コンピュータを完全にリカバリできます。また、ハードディスクドライブを、リカバリポイントが作成された時点の状態にリカバリできます。

**注意:** 別のハードウェアを使うコンピュータにリカバリポイントを復元した場合は、Restore Anyware 機能が自動的に有効になります。このようなリカバリの場合は、ディスクドライブ、サービスパック、ホットフィックスなどを指定するように指示されることがあります。使用できる Windows メディア CD があるはずです。

**警告:** Restore Anyware を使ってコンピュータを復元する前に、リカバリ環境でリカバリポイントにアクセスできるかどうかをテストしてください。SAN ボリュームへのアクセスが可能であること、ネットワークに接続できることを確認してください。

リカバリポイント内からファイルやフォルダをリカバリすることもできます。

Veritas System Recovery Disk を使ってコンピュータをリカバリするには

1. Veritas System Recovery Disk を使ってコンピュータをブートします。

2. [ホーム] パネルで、[コンピュータを修復] をクリックします。
3. [コンピュータのリカバリウィザードへようこそ] パネルで、[次へ] をクリックします。
4. [復元するリカバリポイントを選択] パネルで、このパネルで利用可能なリカバリポイントを表示する方法を選択し、次に必要なオプションを設定します。  
レイアウト構造がないディスクが検出された場合は、ディスクレイアウトを初期化するように求められます。レイアウト構造のないディスクのリストが表示されます。リストには、デフォルトのディスクレイアウトタイプ (GPT または MBR) が示されます。必要に応じてディスクのレイアウトタイプを変更してから、[OK] をクリックしてそれらのレイアウトを初期化します。
5. [次へ] をクリックします。
6. [修復するドライブ] パネルで、必要なオプションを設定します。
7. [次へ] をクリックします。
8. 選択したリカバリオプションを確認します。必要に応じて、[終了後に再起動] を選択できます。このオプションを有効にすると、リカバリプロセスが終了したときにコンピュータが自動的に再起動します。
9. [完了] をクリックし、[はい] をクリックしてリカバリプロセスを開始します。

### [復元するリカバリポイントを選択] オプション

[復元するリカバリポイントを選択] パネルを使用して、コンピュータの復元に使用するリカバリポイントを選択できます。

次の情報ごとに、利用可能なリカバリポイントを表示できます。

- 作成された日付
- 特定のリカバリポイントファイル名
- リカバリポイントによって作成されたシステムインデックス

このパネルで利用可能なオプションは、リカバリポイントの表示方法によって異なります。

表: [復元するリカバリポイントを選択] オプション

| オプション       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| リカバリポイントを表示 | <p>リカバリポイントの表示方法を選択できます。</p> <p>次の情報ごとに、リカバリポイントを表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日付</li> <li>• ファイル名</li> <li>• システム</li> </ul> <p><b>注意:</b> デフォルトでは、[システム] が選択されています。</p> <p>このウィザードパネルで利用可能なオプションは、このフィールドの選択内容に基づいて変わります。</p> |
| ソースフォルダを選択  | 日付ごとのリカバリポイントの表示に基づいて、次のオプション                                                                                                                                                                                                                          |

|                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>( [リカバリポイントを表示] リストで [日付] を選択した場合にのみ表示)</p>                        | <p>を設定できます。</p> <p><b>すべてのローカルドライブ:</b> (デフォルト) コンピュータのローカルドライブに存在する、すべての利用可能なリカバリポイントファイルが一覧に表示されます。</p> <p><b>参照:</b> ローカルドライブのリカバリポイントファイル (.v2i または .iv2i) を参照して特定できます。または、ネットワークフォルダを参照できます (事前にネットワークドライブのマッピングが必要な場合があります)。</p> <p><b>OpenStorage の保存先を参照:</b> バックアップに使用するクラウドストレージの保存先を参照して選択できます。</p> <p><b>ネットワークドライブのマッピング:</b> 共有ネットワークフォルダパスを指定し、ドライブ文字を割り当てることができます。その後で、[参照] を使ってリカバリポイントファイルを特定できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>リカバリポイントの選択 ( [リカバリポイントを表示] リストで [日付] を選択した場合にのみ表示)</p>            | <p>リカバリポイントを作成日付順に表示できます。リカバリポイントが検出されなかった場合は、[リカバリポイントの選択] 表には何も表示されません。その場合は、コンピュータ上で [すべてのローカルドライブ] を検索するか、[参照] を使ってリカバリポイントファイルを見つけることができます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>リカバリポイントのフォルダとファイル名 ( [リカバリポイントを表示] リストで [ファイル名] を選択した場合にのみ表示)</p> | <p>ファイル名ごとにリカバリポイントを表示している場合、リカバリポイントファイルのローカルドライブパスとファイル名を入力できます。または、リカバリポイントファイルの共有ネットワークパスとファイル名を入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>参照:</b> ローカルドライブのリカバリポイントファイル (.v2i または .iv2i) を参照して特定できます。または、ネットワークフォルダを参照できます (事前にネットワークドライブのマッピングが必要な場合があります)。リカバリポイントが隠しドライブに配置されている場合は、次の形式で隠しドライブの場所を指定する必要があります。           <br/><b>DiskNo-PartitionNo¥Filename.v2i</b> または <b>DiskNo-PartitionNo¥Filename.iv2i</b> <br/>たとえば、隠しドライブの場所がディスク 2 およびパーティション 3 の場合、2-3¥file.v2i と入力する必要があります。ここで、2 はディスク番号で 3 はパーティション番号です。         </li> <li> <b>OpenStorage の保存先:</b> リカバリポイントの復元に使用する OpenStorage ストレージの保存先を選択できます。         </li> <li> <b>ネットワークドライブのマッピング:</b> 共有ネットワークフォルダパスを指定し、ドライブ文字を割り当てることができます。その後で、[参照] を使ってリカバリポイントファイルを特定できます。         </li> </ul> |
| <p>システムインデックスフォルダとファイル名 ( [リカバリポイントを表示]</p>                           | <p>システムインデックスファイル (.sv2i) にローカルドライブパスまたは共有ネットワークパスとファイル名を入力できます。システムインデックスファイルを使用して、複数のドライブを備えて</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>示] リストで [システム] を選択した場合にのみ表示)</p> | <p>いるコンピュータを復元できます。<br/>システムインデックスファイルを使えば、複数のドライブの復元にかかる時間を短縮できます。リカバリポイントが作成されるときに、システムインデックスファイルと一緒に保存されます。システムインデックスファイルには、各リカバリポイントの元のドライブの場所を含む、最新のリカバリポイントのリストが含まれています。<br/>次のオプションを設定して、システムインデックスファイルを検索できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>参照</b>: ローカルドライブを参照して、システムインデックス (.sv2i) を探すことができます。または、ネットワークフォルダを参照できます (事前にネットワークドライブのマッピングが必要な場合があります)。<br/>リカバリポイントが隠しドライブに配置されている場合は、次の形式で隠しドライブの場所を指定する必要があります。<br/><b>DiskNo-PartitionNo¥Filename. sv2i</b><br/>たとえば、隠しドライブの場所がディスク 2 およびパーティション 3 の場合、2-3¥file. sv2i と入力する必要があります。ここで、2 はディスク番号で 3 はパーティション番号です。</li> <li>• <b>OpenStorage の保存先</b>: リカバリポイントの復元に使用する OpenStorage ストレージの保存先を選択できます。</li> <li>• <b>ネットワークドライブのマップ</b>: 共有ネットワークフォルダパスを指定し、ドライブ文字を割り当てることができます。その後、<b>[参照]</b> を使用して、必要なシステムインデックスファイルを探すことができます。</li> </ul> |
| <p>リカバリポイントの詳細</p>                  | <p>選択したリカバリポイントについてのさまざまな詳細を確認できます。この詳細によって、コンピュータを復元するための適切なリカバリポイントを選択していることを確認できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

## 【修復するドライブ】のオプション

リカバリする各ドライブを選択できます。

必要に応じて、リストでリカバリポイントの追加または削除を行うことができます。コンピュータをリカバリする場合は、Windows がインストールされているドライブを選択できます。ほとんどのコンピュータシステムで、このドライブは C ドライブになります。リカバリ環境では、ドライブ文字およびラベルが Windows に表示されるものと一致しないことがあります。場合によっては、ラベル (割り当てられた名前) に基づいて適切なドライブを識別する必要があります。または、リカバリポイントのファイルとフォルダを参照する必要があることがあります。

表: 【修復するドライブ】のオプション

| オプション                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| リカバリするドライブの選択                    | <p>Windows がインストールされているドライブを選択できます。ほとんどのコンピュータシステムで、このドライブは C ドライブになります。</p> <p>Veritas System Recovery Disk では、ドライブ文字とラベルが Windows のものと一致しないことがあります。場合によっては、ラベル（割り当てられたソース名）に基づいて適切なドライブを識別する必要があります。または、リカバリポイントのファイルとフォルダを参照する必要があることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>【追加】</b> をクリックして、リカバリするリカバリポイント内から別のドライブを追加できます。たとえば、データドライブを追加できます。「[リカバリするドライブの追加] のオプション」を参照してください。</li> <li>• <b>【削除】</b> をクリックして、選択したドライブをリカバリから破棄できます。</li> <li>• <b>【編集】</b> をクリックして、選択したドライブの復元に関連付けられているさまざまなオプションを設定できます。</li> </ul> |
| 追加                               | <p>省略可能。リカバリするリカバリポイント内の別のドライブを追加できます。</p> <p>リカバリポイントが隠しドライブに配置されている場合は、次の形式で隠しドライブの場所を指定する必要があります。</p> <p><b>DiskNo-PartitionNo¥Filename.v2i</b> または <b>DiskNo-PartitionNo¥Filename.iv2i</b></p> <p>たとえば、隠しドライブの場所がディスク 2 およびパーティション 3 の場合、2-3¥file.v2i と入力する必要があります。ここで、2 はディスク番号で 3 はパーティション番号です。</p>                                                                                                                                                                                                                                     |
| 削除                               | <p>省略可能。[修復するドライブの選択] リストボックスでドライブを選択し、リカバリするドライブのリストから削除できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 編集                               | <p>省略可能。リカバリのターゲットドライブと関連付けられた各種のオプションを変更できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 復元中にリカバリポイントの破損を無視する (潜在的なデータ損失) | <p>壊れたデータを自動的に除外してリカバリポイントの復元を進めます。復元されたデータには、壊れていた部分のデータは含まれません。</p> <p><b>注意:</b> 壊れていたデータは復元対象から除外されるため、データの損失が発生する可能性があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 復元前にリカバリポイントを検証                  | <p>復元する前に、リカバリポイントが有効か、または破損しているかを確認します。リカバリポイントが無効な場合、リカバリは中断されます。このオプションを選択すると、リカバリが完了するまでに必要な時間が大幅に増えることがあります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 復元前にリカバリポイントを検証しない               | <p>復元する前に、リカバリポイントが有効であるか、または破損しているかの検証を行いません。復元中、リカバリポイントで壊れたデータが見つかった場合は、エラーメッセージが表示され、リカバリポイントの復元は行われません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| Restore Anyware を使用して別のハードウェア    | <p>Restore Anyware を使って、リカバリポイントの作成元ハードウェアとは異なるコンピュータハードウェアにリカバリポイントを復元でき</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

|                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>アにリカバリする</p> | <p>ます。<br/>次のいずれかに当てはまる場合、このオプションは自動的に選択されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システムドライブ (Windows がインストールされているドライブ。通常は C ドライブ) のみをリカバリする。または、システムドライブと 1 つ以上のデータドライブの両方を新しいまたは別のコンピュータハードウェアへリカバリする。</li> <li>古いコンピュータから新しいコンピュータハードウェアまたは別のコンピュータハードウェアにアップグレードする。</li> <li>コンピュータのマザーボードが損傷した場合。</li> </ul> <p>新しいまたは別のコンピュータハードウェアにデータドライブのみをリカバリすると、このオプションは選択されません。</p> |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### [修復するドライブを追加] オプション

[リカバリするドライブの追加] を使って、復元するリカバリポイント内部から別のドライブを追加できます。たとえば、データドライブを追加できます。

表: [修復するドライブを追加] オプション

| オプション                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>リカバリポイントのフォルダとファイル名</p> | <p>リカバリポイントファイルのローカルドライブパスとファイル名または共有ネットワークパスとファイル名を入力できます。リカバリポイントが隠しドライブに配置されている場合は、次の形式で隠しドライブの場所を指定する必要があります。<br/><b>DiskNo-PartitionNo¥Filename.v2i</b> または <b>DiskNo-PartitionNo¥Filename.iv2i</b><br/>たとえば、隠しドライブの場所がディスク 2 およびパーティション 3 の場合、2-3¥file.v2i と入力する必要があります。ここで、2 はディスク番号で 3 はパーティション番号です。</p> |
| <p>参照</p>                  | <p>ローカルドライブのリカバリポイントファイル (.v2i または .iv2i) を参照して特定できます。または、ネットワークフォルダを参照できます (事前にネットワークドライブのマッピングが必要な場合があります)。</p>                                                                                                                                                                                                |
| <p>OpenStorage の保存先</p>    | <p>リカバリポイントの復元に使用する OpenStorage ストレージの保存先を選択できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>ネットワークドライブのマッピング</p>    | <p>共有ネットワークフォルダパスを指定し、ドライブ文字を割り当てることができます。その後で、[参照] を使ってリカバリポイントファイルを特定できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>リカバリポイントの詳細</p>         | <p>[リカバリポイントのフォルダとファイル名] ボックスでリカバリポイントを識別する場合、この領域にリカバリポイントのさまざまな詳細が表示されます。この詳細によって、コンピュータを復元するための適切なリカバリポイントを選択していることを確認できます。</p>                                                                                                                                                                               |

## [ターゲットドライブとオプションを編集]

[ターゲットドライブの編集] ダイアログボックスは、ウィザードの [修復するドライブ] パネルの [編集] をクリックすると表示されます。リカバリするドライブを選択できます。その後、リカバリプロセスで実行するオプションを設定できます。

表: [ターゲットドライブの編集] のオプション

| オプション                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ドライブを削除                       | リカバリポイントを復元する領域を確保するために、リストで選択したドライブを削除できます。[ドライブの削除] をクリックしても、ドライブは削除対象としてマークされるだけです。ウィザードで [完了] をクリックすると、ドライブの実際の削除が行われます。                                                                                                                                                                                |
| 削除を元に戻す                       | 削除したドライブを、リカバリするドライブのリストに戻すことができます。                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| リカバリ後にドライブのサイズを変更 (未割り当て領域のみ) | リカバリポイントが復元された後でサイズ調整を行うディスク (またはボリュームラベル) を選択できます。このオプションを選択し、新しいサイズを MB 単位で指定できます。サイズは、リストで選択したディスクの識別されたサイズより大きくする必要があります。                                                                                                                                                                               |
| パーティションの種類                    | パーティションの種類を次のように設定できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>基本パーティション:</b> ハードディスクの基本パーティションは最大 4 つに制限されているため、ドライブのパーティションが 4 つ以下の場合はこの種類を選択します。</li><li>• <b>論理パーティション:</b> 5 つ以上のパーティションが必要な場合は [論理パーティション] を選択します。最大 3 つのプライマリパーティションに加えて、ハードディスクの最大サイズまで任意の数の論理パーティションを作成できます。</li></ul>         |
| リカバリ後のファイルシステムのエラーを確認         | リカバリポイントの復元後に、復元したドライブにエラーがないかどうかをチェックできます。                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ドライブをアクティブ (OS ブート用) に設定      | 復元したドライブをアクティブパーティション (コンピュータの起動ドライブなど) に設定できます。オペレーティングシステムがインストールされているドライブを復元する場合は、このオプションを選択してください。                                                                                                                                                                                                      |
| 元のディスク署名を復元                   | ハードドライブの元の物理ディスク署名を復元できます。ディスク署名は、Veritas System Recovery 22 がサポートするすべての Windows オペレーティングシステムに含まれます。ハードドライブを使用するには、ディスク署名が必要です。<br>次のいずれかの状況である場合は、このオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• コンピュータのドライブ文字が特殊である場合 (G、D、E などの文字以外が割り当てられているなど)。</li><li>• 新しい、空のハードディスクにリカバリポイントを復元す</li></ul> |

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                | る場合。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| マスターブートレコードを復元 | <p>マスターブートレコードを復元できます。マスターブートレコードは、物理ハードディスクの最初のセクタにあります。マスターブートレコードは、マスターブートプログラムと、ディスクパーティションを記述するパーティションテーブルで構成されます。マスターブートプログラムは、最初の物理ハードディスクのパーティションテーブルを分析して、アクティブな基本パーティションを調べます。その後で、アクティブパーティションのブートセクタからブートプログラムを起動します。</p> <p>このオプションは、詳しい知識のあるユーザーにのみお勧めします。Veritas System Recovery Disk 内からドライブ全体を復元する場合にのみ利用できます。</p> <p>次のいずれかの状況である場合は、このオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新しい、空のハードディスクにリカバリポイントを復元する場合。</li> <li>• 元のドライブにリカバリポイントを復元するが、リカバリポイントが作成された後にドライブのパーティションが修正された場合。</li> <li>• ウイルスまたは他の問題によって、ドライブのマスターブートレコードの破損が疑われる場合。</li> </ul> |

## バックアップとリカバリに使用する OpenStorage 保存先オプション

[OpenStorage 保存先] ダイアログボックスで、バックアップとリカバリに使用するクラウド保存先を選択できます。

表: バックアップとリカバリに使用する OpenStorage 保存先オプション

| OpenStorage の保存先 | オプションと説明 | オプションと説明          | オプションと説明                       | オプションと説明                                                                | オプションと説明                     |
|------------------|----------|-------------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
|                  | サーバーの種類  | サーバー名             | ログオン: ユーザー名                    | ログオン: パスワード                                                             | 論理ストレージユニット                  |
| Amazon S3        | S3       | amazon:amazon.com | Amazon アカウントのアクセスキーです。         | Amazon アカウントのシークレットキーです。                                                | ストレージユニットはバケットと呼ばれます。        |
| Microsoft Azure  | Azure    | azure:azure.com   | Microsoft Azure ストレージのユーザー名です。 | Microsoft Azure ストレージアカウントのアクセスキーです。プライマリアクセスキーまたはセカンダリアccessキーを入力できます。 | ストレージユニットは、コンテナ/Blob と呼ばれます。 |

|                |    |                      |                      |                        |                       |
|----------------|----|----------------------|----------------------|------------------------|-----------------------|
| Generic S3     | S3 | S3 との互換性: インスタンス名    | プロバイダアカウントのアクセスキーです。 | プロバイダアカウントのシークレットキーです。 | ストレージユニットはバケットと呼ばれます。 |
| Veritas Access | S3 | vtas-access: インスタンス名 | プロバイダアカウントのアクセスキーです。 | プロバイダアカウントのシークレットキーです。 | ストレージユニットはバケットと呼ばれます。 |

リカバリおよび Recovery Point Browser で、[OK] をクリックします。

[OpenStorage ファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。

選択した論理ストレージユニットに基づき、使用可能なすべてのリカバリポイントが一覧表示されます。復元するリカバリポイント (\*.v2i) を選択する一覧で、リカバリポイントを選択します。

コンピュータのリカバリ、ファイルとフォルダのリカバリ、Recovery Point Browser を実行する場合は、[ファイル名] オプションに対しては 1 つの v2i または .iv2i ファイルを選択でき、[システム] に対しては 1 つの .sv2i ファイルのみを選択できます。

**注意:** Generic S3 と Veritas Access の場合、Cloud Instance Creator Utility を使用してクラウドインスタンスを作成できます。クラウドインスタンスは、バックアップを定義するときに OpenStorage の保存先として使用したり、リストア用の OpenStorage の保存先として使用したりできます。

## Veritas System Recovery Disk を使った仮想ディスクファイルからのコンピュータのリカバリ

Veritas System Recovery Disk を使って、仮想ディスクファイル (.vmdk または .vhd) 内部からコンピュータをリカバリできます。リカバリするハードドライブ用の仮想ディスクがある場合は、コンピュータを完全にリカバリできます。また、別のハードディスクドライブを、元の仮想ディスクが作成された時点の状態にリカバリできます。

**注意:** システムドライブの仮想ディスクを復元する場合は、Restore Anyware 機能が自動的に有効になります。このようなりカバリの場合は、ディスクドライバ、サービスパック、ホットフィックスなどを指定するように指示されることがあります。使用できる Windows メディア CD があるはずです。

**警告:** Restore Anyware を使用してコンピュータを復元する前に、リカバリ環境で仮想ディスクにアクセスできるかどうかをテストしてください。SAN ボリュームへのアクセスが可能であること、ネットワークに接続できることを確認してください。

Veritas System Recovery Disk を使って仮想ディスクファイルからコンピュータをリカバリするには

1. Veritas System Recovery Disk を使ってコンピュータをブートします。
2. [ホーム] パネルで、[コンピュータを修復] をクリックします。
3. [コンピュータのリカバリウィザードへようこそ] パネルで、[次へ] をクリックします。
4. [復元するリカバリポイントを選択] パネルの [リカバリポイントを表示] リストで、[ファイル名] を選択します。  
レイアウト構造がないディスクが検出された場合は、ディスクレイアウトを初期化するように求められます。レイアウト構造のないディスクのリストが表示されます。リストには、デフォルトのディスクレイアウトタイプ (GPT または MBR) が示されます。必要に応じてディスクのレイアウトタイプを変更してから、[OK] をクリックしてそれらのレイアウトを初期化します。
5. [参照] をクリックします。または、仮想ディスクファイルがネットワーク上に存在する場合、まず [ネットワークドライブのマップ] をクリックする必要があることがあります。その後、共有ネットワークフォルダパスを指定し、ドライブ文字を割り当てることができます。これにより、ネットワーク上の場所を参照できるようになります。  
リカバリポイントが隠しドライブに配置されている場合は、次の形式で隠しドライブの場所を指定する必要があります。  
**DiskNo-PartitionNo¥Filename.vmdk** または **DiskNo-PartitionNo¥Filename.vhd**  
たとえば、隠しドライブの場所がディスク 2 およびパーティション 3 の場合、2-3¥file.vmdk と入力する必要があります。ここで、2 はディスク番号で 3 はパーティション番号です。
6. [オープン] ダイアログボックスの [ファイルの種類] リストで、[仮想ディスク (\*.vhd, \*.vmdk, \*.vhdx, \*.v2i)] を選択します。
7. 仮想ディスクファイルを探して選択し、[開く] をクリックします。
8. [次へ] をクリックします。
9. [ターゲットドライブ] パネルで、仮想ディスクを復元するターゲットドライブを選択します。
10. 必要に応じて、次のいずれかを実行します。
  - [ドライブの削除] をクリックします。リスト内の指定したドライブを削除して、仮想ディスクの復元に領域を使用できるようにします。[ドライブの削除] をクリックしても、ドライブは削除対象としてマークされるだけです。ドライブの実際の削除は、ウィザードの [完了] をクリックした後で実行されます。
  - [削除を元に戻す] をクリックします。ドライブを削除した後で削除操作を取り消す場合は、[削除を元に戻す] をクリックして、そのドライブをリストに戻します。
11. [次へ] をクリックします。

12. 必要に応じて、製品のライセンスキーを入力します。ライセンスキーは、仮想ディスクファイルからシステムをリカバリするときに、Restore Anyware を使用するのに必要です。
13. [次へ] をクリックします。
14. [修復オプション] パネルで、必要なオプションを設定します。
15. [次へ] をクリックします。
16. 選択したリカバリオプションを確認します。必要に応じて、[終了後に再起動] を選択できます。このオプションを有効にすると、リカバリプロセスが終了したときにコンピュータが自動的に再起動します。
17. [完了] をクリックし、[はい] をクリックしてリカバリプロセスを開始します。

### [ターゲットドライブ] オプション

仮想ディスクを復元する領域が不足している場合、ドライブを削除して未割り当て領域を確保できます。

表: [ターゲットドライブ] オプション

| オプション                  | 説明                                                                                                                          |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ターゲットドライブまたは未割り当て領域を選択 | 仮想ディスクを復元するターゲットドライブを指定します。                                                                                                 |
| 削除を元に戻す                | 削除したドライブを、リカバリするドライブのリストに戻すことができます。                                                                                         |
| ドライブを削除                | 仮想ディスクを復元する領域を確保するために、リストで選択したドライブを削除できます。[ドライブの削除] をクリックしても、ドライブは削除対象としてマークされるだけです。ドライブの実際の削除は、ウィザードの[完了] をクリックした後で実行されます。 |

### [Restore Anyware] オプション

Restore Anyware を使用して、元のコンピュータとは別のハードウェアを備えたコンピュータにオペレーティングシステムドライブをリカバリできます。

表: [Restore Anyware] オプション

| オプション                                | 説明                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Restore Anyware を使用して別のハードウェアにリカバリする | 仮想ディスクをリカバリする場合、このオプションは自動的に選択されます。また、オペレーティングシステムドライブ (Windows がインストールされているドライブであり、通常は C ドライブ) をリカバリする場合も自動的に選択されます。データドライブを含んでいる仮想ディスクを復元する場合、このオプションは選択されません。仮想ディスクにデータのみが含まれている場合にこのオプション |

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | を選択すると、復元時にこのオプションは無視されます。                                                                                                                                                                                                                                              |
| ライセンスキー | <p>[Restore Anyware] オプションを使用して仮想ディスクファイルからシステムをリカバリする場合、ライセンスキーが必要になることがあります。</p> <p>独自に作成したカスタム Veritas System Recovery Disk に直接ライセンスキーを追加した場合には、ライセンスキーは必要ありません。独自のカスタム Veritas System Recovery Disk の作成について詳しくは、『Veritas System Recovery 22 ユーザーズガイド』を参照してください。</p> |

## リカバリオプション (Recovery Options)

仮想ディスクのリカバリプロセス時に実行するさまざまなオプションを設定できます。利用可能なオプションは、ウィザードで以前選択したターゲットドライブによって異なります。

表: リカバリオプション (Recovery options)

| オプション                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| リカバリ前にリカバリポイントを検証             | 仮想ディスクをリカバリする場合、このオプションは利用できません。                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| リカバリ後のファイルシステムのエラーを確認         | リカバリポイントが復元された後、復元されたドライブでエラーがあるかどうかを確認します。                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| リカバリ後にドライブのサイズを変更 (未割り当て領域のみ) | 新しいドライブサイズを MB 単位で指定できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| パーティションの種類                    | <p>パーティションの種類を次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>基本パーティション</b>: ハードディスクの基本パーティションは最大 4 つに制限されているため、ドライブのパーティションが 4 つ以下の場合はこの種類を選択します。</li> <li>● <b>論理パーティション</b>: 5 つ以上のパーティションが必要な場合は [論理パーティション] を選択します。最大 3 つのプライマリパーティションに加えて、ハードディスクの最大サイズまで任意の数の論理パーティションを作成できます。</li> </ul> |
| ドライブをアクティブ (OS ブート用) に設定      | 復元されたドライブをアクティブパーティションにします (コンピュータを起動するドライブなど)。オペレーティングシステムがインストールされているドライブを復元する場合は、このオプションを選択してください。                                                                                                                                                                                                        |
| 元のディスク署名を復元                   | ハードドライブの元の物理ディスク署名を復元します。ディスク署名は、Veritas System Recovery 22 がサポートするすべての Windows オペレーティングシステムに含まれます。ハードドライブを使用するには、ディスク署名が必要です。次のいずれかの状況である場合は、このオプションを選択します。                                                                                                                                                 |

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>• コンピュータのドライブ文字が特殊である場合 (C、D、E などの文字以外が割り当てられているなど)。</li> <li>• 新しい、空のハードディスクにリカバリポイントを復元する場合。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <b>マスターブートレコードを復元</b> | <p>マスターブートレコードを復元します。マスターブートレコードは、物理ハードディスクの最初のセクタにあります。マスターブートレコードは、マスターブートプログラムと、ディスクパーティションを記述するパーティションテーブルで構成されます。マスターブートプログラムは、最初の物理ハードディスクのパーティションテーブルを分析して、アクティブな基本パーティションを調べます。その後で、アクティブパーティションのブートセクタからブートプログラムを起動します。</p> <p>このオプションは上級ユーザーにのみ推奨されます。また、リカバリ環境でドライブ全体を復元する場合にのみ使用できます。</p> <p>次のいずれかの状況である場合は、このオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新しい、空のハードディスクにリカバリポイントを復元する場合。</li> <li>• 元のドライブにリカバリポイントを復元するが、リカバリポイントが作成された後にドライブのパーティションが修正された場合。</li> <li>• ウイルスまたは他の問題によって、ドライブのマスターブートレコードの破損が疑われる場合。</li> </ul> |

## Veritas System Recovery Disk で Recovery Point Browser を使ったファイルやフォルダのリカバリ

Veritas System Recovery Disk を使って、コンピュータで消失、破損、変更、削除したファイルやフォルダをリカバリできます。たとえば、リカバリポイントを 3 日前に作成したとします。その後、重要なフォルダを誤って変更したために Windows が適切に起動しなくなったとします。この場合は、Veritas System Recovery Disk を使ってコンピュータを起動できます。Recovery Point Browser で 3 日前のリカバリポイントを開き、元のフォルダを選択してリカバリできます。

Veritas System Recovery Disk で Recovery Point Browser を使ってファイルやフォルダをリカバリする方法

1. Veritas System Recovery Disk を使ってコンピュータをブートします。
2. Veritas System Recovery Disk のブラウザウィンドウの左側で、**【修復】** をクリックします。
3. **【コンピュータのデータを修復】** パネルで、**【ファイルを修復】** をクリックします。

4. 次のいずれかを実行します。
  - Veritas System Recovery Disk がコンピュータでリカバリポイントを検出した場合は、リストからリカバリポイントを選択して [OK] をクリックします。
  - Veritas System Recovery Disk がリカバリポイントを検出しなかった場合は、場所を参照するように求められます。 [OK] をクリックしてメッセージを閉じます。  
[リカバリポイントを選択] ダイアログボックスでリカバリポイントを参照し、 [OK] をクリックします。
5. Recovery Point Browser のツリーペインで、復元するファイルまたはフォルダが含まれるドライブをダブルクリックします。
6. Recovery Point Browser のコンテンツペインで、復元するファイルまたはフォルダを選択します。
7. [ファイルを修復] をクリックします。可能であれば、[アイテムの修復] ダイアログボックスの [このフォルダに修復] テキストボックスに、ファイルを作成したときの元のパスが自動的に表示されます。元の場所にドライブ文字が含まれていない場合は、パスの先頭にドライブ文字を入力する必要があります。Veritas System Recovery Disk では、ドライブ文字とラベルが Windows のものと一致しないことがあります。ラベル (割り当てられた名前) に基づいて、適切なドライブを識別する必要があることがあります。
8. 元のパスが不明であったり、選択したファイルを別の場所に復元する場合は、[参照] をクリックして復元先を指定します。

## [リカバリポイントの選択] オプション

[リカバリポイントの選択] パネルを使って、コンピュータにファイルやフォルダを復元する場合に使うリカバリポイントを選択できます。

次の情報ごとに、利用可能なリカバリポイントを表示できます。

- 作成された日付
- 特定のリカバリポイントファイル名

表: [リカバリポイントの選択] オプション

| オプション                                      | 説明                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| リカバリポイントを表示                                | <p>リカバリポイントの表示方法を選択できます。次の情報ごとに、リカバリポイントを表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日付</li> <li>• ファイル名</li> </ul> <p>このウィザードパネルで利用可能なオプションは、このフィールドの選択内容に基づいて変わります。</p> |
| ソースフォルダを選択<br>( [リカバリポイントを表示] リストで [日付] を選 | <p>日付ごとのリカバリポイントの表示に基づいて、次のオプションを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべてのローカルドライブ: (デフォルト) コンピュー</li> </ul>                                                       |

|                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>択した場合にのみ表示)</p>                                                        | <p>タのローカルドライブに存在する、すべての利用可能なリカバリポイントファイルが一覧に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>参照:</b> ローカルドライブのリカバリポイントファイル (.v2i または .iv2i) を参照して特定できます。または、ネットワークフォルダを参照できません (事前にネットワークドライブのマッピングが必要な場合があります)。</li> <li>• <b>OpenStorage の保存先を参照:</b> バックアップに使用するクラウドの宛先を選択できます。</li> <li>• <b>ネットワークドライブのマップ:</b> 共有ネットワークフォルダパスを指定し、ドライブ文字を割り当てることができます。その後で、[参照] を使ってリカバリポイントファイルを特定できます。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>リカバリポイントの選択<br/>( [リカバリポイントを表示] リストで [日付] を選択した場合にのみ表示)</p>            | <p>リカバリポイントを作成日付順に表示できます。リカバリポイントが検出されなかった場合は、[リカバリポイントの選択] 表には何も表示されません。その場合は、コンピュータ上で [すべてのローカルドライブ] を検索するか、[参照] を使ってリカバリポイントファイルを見つけることができます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>リカバリポイントのフォルダとファイル名<br/>( [リカバリポイントを表示] リストで [ファイル名] を選択した場合にのみ表示)</p> | <p>ファイル名ごとにリカバリポイントを表示している場合、リカバリポイントファイルのローカルドライブパスとファイル名を入力できます。または、リカバリポイントファイルの共有ネットワークパスとファイル名を入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>参照:</b> ローカルドライブのリカバリポイントファイル (.v2i または .iv2i) を参照して特定できます。または、ネットワークフォルダを参照できません (事前にネットワークドライブのマッピングが必要な場合があります)。</li> </ul> <p>隠しドライブとその他のドライブの一覧を確認するには、[隠しドライブを表示] チェックボックスにチェックマークを付けます。リカバリポイントを格納する場所として隠しドライブを選択できます。隠しドライブは次の形式で表示されます。</p> <p><b>DiskNo-PartitionNo¥</b></p> <p>たとえば、ある隠しドライブは 2-3¥ と表示されます。ここで、2 はディスク番号で 3 はパーティション番号です。</p> <p><b>注意:</b> デフォルトでは、このチェックボックスにはチェックマークが付いていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>OpenStorage の保存先:</b> リカバリポイントの復元に使用する OpenStorage ストレージの保存先を選択できます。</li> <li>• <b>ネットワークドライブのマップ:</b> 共有ネットワークフォルダパスを指定し、ドライブ文字を割り当てることができます。その後で、[参照] を使ってリカバリポイントファイルを特定できます。</li> </ul> |

|             |                                                                                     |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| リカバリポイントの詳細 | 選択したリカバリポイントについてのさまざまな詳細を確認できます。この詳細によって、コンピュータを復元するための適切なリカバリポイントを選択していることを確認できます。 |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------|

## バックアップとリカバリに使用する OpenStorage 保存先オプション

[OpenStorage 保存先] ダイアログボックスで、バックアップとリカバリに使用するクラウド保存先を選択できます。

表: バックアップとリカバリに使用する OpenStorage 保存先オプション

| OpenStorage の保存先 | オプションと説明 | オプションと説明             | オプションと説明                       | オプションと説明                                                                | オプションと説明                     |
|------------------|----------|----------------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
|                  | サーバーの種類  | サーバー名                | ログオン: ユーザー名                    | ログオン: パスワード                                                             | 論理ストレージユニット                  |
| Amazon S3        | S3       | amazon:amazon.com    | Amazon アカウントのアクセスキーです。         | Amazon アカウントのシークレットキーです。                                                | ストレージユニットはバケットと呼ばれます。        |
| Microsoft Azure  | Azure    | azure:azure.com      | Microsoft Azure ストレージのユーザー名です。 | Microsoft Azure ストレージアカウントのアクセスキーです。プライマリアクセスキーまたはセカンダリアccessキーを入力できます。 | ストレージユニットは、コンテナ/Blob と呼ばれます。 |
| Generic S3       | S3       | S3 との互換性: インスタンス名    | プロバイダアカウントのアクセスキーです。           | プロバイダアカウントのシークレットキーです。                                                  | ストレージユニットはバケットと呼ばれます。        |
| Veritas Access   | S3       | vtas-access: インスタンス名 | プロバイダアカウントのアクセスキーです。           | プロバイダアカウントのシークレットキーです。                                                  | ストレージユニットはバケットと呼ばれます。        |

リカバリおよび Recovery Point Browser で、[OK] をクリックします。

[OpenStorage ファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。

選択した論理ストレージユニットに基づき、使用可能なすべてのリカバリポイントが一覧表示されます。復元するリカバリポイント (\*v2i) を選択する一覧で、リカバリポイントを選択します。

コンピュータのリカバリ、ファイルとフォルダのリカバリ、Recovery Point Browser を実行する場合は、**[ファイル名]** オプションに対しては 1 つの v2i または .iv2i ファイルを選択でき、**[システム]** に対しては 1 つの .sv2i ファイルのみを選択できます。

**注意:** Generic S3 と Veritas Access の場合、Cloud Instance Creator Utility を使用してクラウドインスタンスを作成できます。クラウドインスタンスは、バックアップを定義するときに OpenStorage の保存先として使用したり、リストア用の OpenStorage の保存先として使用したりできます。

## Veritas System Recovery Disk を使ったコンピュータのバックアップについて

有効なライセンスキーがあれば、Veritas System Recovery Disk の「コンピュータのバックアップ」機能を使って単体リカバリポイントを作成できます。このようなバックアップはコールドバックアップまたはオフラインバックアップとも呼ばれます。Veritas System Recovery 22 やそのエージェントをインストールしなくてもパーティションのリカバリポイントを作成できます。

コールドバックアップでは、バックアップが行われるときにすべてのファイルが閉じられます。デスクトップまたはサーバーで更新中またはアクセス中である可能性があるデータは、コピーしません。コールドバックアップは、特にデータベースで役立ちます。バックアップ中は、ファイルの書き込みやアクセスがまったく行われないので、完全なリカバリポイントが取得されます。

次のいずれかに該当する場合は、Veritas System Recovery Disk を使ってリカバリポイントを作成することもできます。

- 一定レベルの破損により、コンピュータ上で Windows を起動できない。
- Veritas System Recovery 22 が、Windows オペレーティングシステムで実行中に正しく機能しない。
- リカバリする前に、損傷したシステム状態のバックアップをとっておきたい。たとえば、サーバーかデスクトップに重大な損傷があるとします。Veritas System Recovery Disk を使って、損傷したシステムのバックアップを作成できます。次に、単体リカバリポイントを復元した後で、リカバリできるものをリカバリします。

**注意:** Veritas System Recovery Disk を使って作成したリカバリポイントは、Restore Anyware を使って異なるハードウェアに復元されます。

Veritas System Recovery Disk を使ってバックアップを作成するときに、次のシナリオでのみライセンスキーの入力を求めるメッセージが表示されます。

- コンピュータのバックアップの作成に、Veritas System Recovery Disk のオリジナルの出荷版を使う場合。コンピュータに Veritas System Recovery 22 がインストールされていない。
- Veritas System Recovery Disk のオリジナルの出荷版を使ってバックアップを作成するコンピュータに、Veritas System Recovery 22 をインストールしているがライセンスは交付されていない場合。
- ライセンスのない Veritas System Recovery 22 (評価版) をインストールしたコンピュータで、カスタム Veritas System Recovery Disk を作成する場合。次に、カスタム Veritas System Recovery Disk を使用します。このディスクを使って、Veritas System Recovery 22 をインストールしていないコンピュータのバックアップを作成できます。
- カスタマイズした Veritas System Recovery Disk を作成した時点で、ライセンスキーを追加しなかった場合。独自のカスタム Veritas System Recovery Disk の作成について詳しくは、『Veritas System Recovery 22 ユーザーズガイド』を参照してください。

## Veritas System Recovery Disk を使ったコンピュータのバックアップ

有効なライセンスキーがあれば、Veritas System Recovery Disk の「コンピュータのバックアップ」機能を使って単体リカバリポイントを作成できます。このようなバックアップはコールドバックアップまたはオフラインバックアップとも呼ばれます。Veritas System Recovery 22 やそのエージェントをインストールしなくてもパーティションのリカバリポイントを作成できます。

Veritas System Recovery Disk を使ってコンピュータのバックアップを作成するには

1. 外付け USB ハードディスクドライブに結果のリカバリポイントを保存する場合は、ここでデバイスをコンピュータに接続します。
2. バックアップを作成するコンピュータを Veritas System Recovery Disk を使ってブートします。
3. [ホーム] パネルで、[コンピュータをバックアップ] をクリックします。
4. [次へ] をクリックします。
5. メッセージが表示されたら、[ライセンスキーを指定] パネルで有効なライセンスキーを入力します。
6. [次へ] をクリックします。
7. [ドライブ] パネルで、バックアップする 1 つ以上のドライブを選択します。
8. [次へ] をクリックします。
9. [バックアップ先] パネルで、必要なバックアップ先オプションを設定します。

10. [次へ] をクリックします。
11. [オプション] パネルで、目的のリカバリポイントオプションを設定します。
12. [次へ] をクリックします。
13. [終了] をクリックして、バックアップを実行します。
14. バックアップが終了したら、[閉じる] をクリックして Veritas System Recovery Disk のメインウィンドウに戻ります。

### [バックアップ先] オプション

作成したリカバリポイントを保存する場所を指定できます。また、リカバリポイントのファイル名を変更できます。

表: [バックアップ先] オプション

| オプション               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| フォルダ                | <p>単体リカバリポイントを保存する場所のフォルダパスを入力できます。</p> <p>リカバリポイントを格納する場所として、次の形式で隠しドライブを指定できます。</p> <p><b>DiskNo-PartitionNo¥</b></p> <p>たとえば、ディスク番号が 2 でパーティション番号が 3 の場合、場所として 2-3¥ を指定する必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                     |
| 参照                  | <p>リカバリポイントファイルを保存するローカルドライブ上の場所を参照できます。または、ネットワークフォルダを参照できます（事前にネットワークドライブのマッピングが必要な場合があります）。</p> <p>隠しドライブとその他のドライブの一覧を確認するには、[隠しドライブを表示] チェックボックスにチェックマークを付けます。リカバリポイントを格納する場所として隠しドライブを選択できます。隠しドライブは次の形式で表示されます。</p> <p><b>DiskNo-PartitionNo¥</b></p> <p>たとえば、ある隠しドライブは 2-3¥ と表示されます。</p> <p>ここで、2 はディスク番号で 3 はパーティション番号です。</p> <p><b>注意:</b> デフォルトでは、このチェックボックスにはチェックマークが付いていません。</p> |
| OpenStorage の保存先を参照 | バックアップに使用するクラウドの保存先を選択できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ネットワークドライブのマッピング    | 共有ネットワークフォルダパスを指定し、ドライブ文字を割り当てることができます。その後、[参照] を使用して、単体リカバリポイントファイルを保存するパスを探することができます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| リカバリポイントファイル名       | リカバリポイントのソースドライブとファイル名の候補を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 名前の変更               | 選択したリカバリポイントのファイル名を変更できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

## バックアップに使用する OpenStorage 保存先オプション

[OpenStorage 保存先] ダイアログボックスで、バックアップに使用するクラウド保存先を選択できます。

表: バックアップに使用する OpenStorage 保存先オプション

| OpenStorage の保存先 | オプションと説明 | オプションと説明             | オプションと説明                       | オプションと説明                                                                | オプションと説明                     |
|------------------|----------|----------------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
|                  | サーバーの種類  | サーバー名                | ログオン: ユーザー名                    | ログオン: パスワード                                                             | 論理ストレージユニット                  |
| Amazon S3        | S3       | amazon:amazon.com    | Amazon アカウントのアクセスキーです。         | Amazon アカウントのシークレットキーです。                                                | ストレージユニットはバケットと呼ばれます。        |
| Microsoft Azure  | Azure    | azure:azure.com      | Microsoft Azure ストレージのユーザー名です。 | Microsoft Azure ストレージアカウントのアクセスキーです。プライマリアクセスキーまたはセカンダリアccessキーを入力できます。 | ストレージユニットは、コンテナ/Blob と呼ばれます。 |
| Generic S3       | S3       | S3 との互換性: インスタンス名    | プロバイダアカウントのアクセスキーです。           | プロバイダアカウントのシークレットキーです。                                                  | ストレージユニットはバケットと呼ばれます。        |
| Veritas Access   | S3       | vtas-access: インスタンス名 | プロバイダアカウントのアクセスキーです。           | プロバイダアカウントのシークレットキーです。                                                  | ストレージユニットはバケットと呼ばれます。        |

**注意:** Generic S3 と Veritas Access の場合、Cloud Instance Creator Utility を使用してクラウドインスタンスを作成できます。クラウドインスタンスは、バックアップを定義するときに OpenStorage の保存先として使用したり、リストア用の OpenStorage の保存先として使用したりできます。

## Veritas System Recovery Disk を使ったコンピュータのバックアップのオプション

リカバリポイントの圧縮レベルを設定できます。また、リカバリポイントに説明を追加したり他の詳細オプションを有効にすることもできます。

表: Veritas System Recovery Disk を使ったコンピュータのバックアップのオプション

| オプション           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 圧縮              | <p>リカバリポイントの圧縮レベルを設定できます。<br/>利用可能なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>なし: ストレージ容量が十分にある場合に使用します。ただし、バックアップの保存先がアクセスの多いネットワークドライブである場合には、高い圧縮レベルを使用した方が圧縮しない場合よりも短時間で処理できる場合があります。高い圧縮レベルを使用すると、ネットワークを介して書き込むデータの量が少なくなります。</li><li>標準 (推奨): 低い圧縮率を使用し、リカバリポイントのデータを平均 40% 圧縮します。この設定はデフォルトです。</li><li>中: 中程度の圧縮率を使用し、リカバリポイントのデータを平均 45% 圧縮します。</li><li>高 - 高い圧縮率を使用し、リカバリポイントのデータを平均 50% 圧縮します。リカバリポイントの作成に最も時間がかかります。高い圧縮率でのリカバリポイントの作成には、通常よりも CPU に高い負荷がかかる場合があります。コンピュータ上でのその他の処理も遅くなる場合があります。その場合は、Veritas System Recovery 22 の動作速度を調整することで、同時に実行する他のリソース集約型アプリケーションのパフォーマンスを向上できます。</li></ul> |
| 作成後のリカバリポイントを検証 | <p>リカバリポイントの作成後に、リカバリポイントが有効かどうかを検証できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 説明              | <p>リカバリポイントと関連付ける説明を入力できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 詳細設定            | <p>パスワード保護など、リカバリポイントと関連付ける詳細オプションを設定できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

## 【詳細】 オプション

パスワード保護など、リカバリポイントと関連付ける詳細オプションを設定できます。

表: 【詳細】 オプション

| オプション               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 複数ファイルに分割してアーカイブ    | リカバリポイントを複数の小さいファイルに分割し、各ファイルの最大サイズ (MB) を指定できます。たとえば、リカバリポイントをバックアップ先から zip ディスクにコピーするとします。この場合、zip ディスクのサイズに従って最大ファイルサイズの 100 MB を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                              |
| SmartSector コピーの無効化 | SmartSector 技術は、データを含んでいるハードディスクのセクタのみをコピーすることでコピー処理を高速化します。ただし、データを含んでいるかいないかに関わらず、元のレイアウトですべてのセクタをコピーする必要がある場合があります。使用および未使用のハードディスクセクタをコピーできます。そのため、コピー処理に要する時間が長くなり、リカバリポイントのサイズが大きくなります。                                                                                                                                                                                                           |
| コピー中は不良セクタを無視       | ハードディスクに不良セクタがある場合でも、バックアップを実行できます。ほとんどのドライブでは不良セクタは発生しませんが、ハードディスクの継続的な使用の中で問題が発生する可能性が高くなります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| パスワードの使用            | 作成時にリカバリポイントのパスワードを設定し、AES 暗号化を有効にします。<br>このチェックボックスは、デフォルトでチェックマークが付いています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| パスワード               | バックアップのためのパスワードを指定できます。パスワードには標準文字を含むことができます。パスワードには、拡張文字または記号を含むことはできません。(128 以下の ASCII 値の文字を使用してください)<br>バックアップを復元したり、リカバリポイントの内容を表示する前にこのパスワードを入力する必要があります。                                                                                                                                                                                                                                          |
| パスワードの確認            | パスワードを再入力して確認できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| AES 暗号化             | リカバリポイントデータを暗号化して、リカバリポイントをさらに強力に保護します。<br>以前のバージョンから Veritas System Recovery 22 にアップグレードする場合に、パスワード保護のみが定義された古いバックアップジョブでは、ジョブを編集して AES 暗号化レベルを選択する必要があります。古いバックアップジョブを編集しない場合は、引き続き AES 暗号化なしで実行されます。ジョブを編集し、AES 暗号化レベルを選択することをお勧めします。<br>注意: [パスワードを使用する] チェックボックスにチェックマークを付けた場合は、AES 暗号化を定義する必要があります。<br>次の暗号化レベルから選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>標準 128 ビット (8 文字以上のパスワード)</li></ul> |

|  |                                                                                                                 |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>• 中 192 ビット (16 文字以上のパスワード)</li><li>• 高 256 ビット (32 文字以上のパスワード)</li></ul> |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## Veritas System Recovery Disk のネットワークツールの使用について

ネットワーク上にリカバリポイントを保存する場合は、ネットワークにアクセスする必要があります。ネットワークにアクセスすると、Veritas System Recovery Disk からコンピュータまたはファイルやフォルダを復元できます。Veritas System Recovery Disk には、リカバリに役立つ各種のネットワークツールが用意されています。

**注意:** ネットワークを通じてコンピュータやファイルをリカバリする場合は、追加のコンピュータメモリが必要になることがあります。

## ネットワークサービスの起動

ネットワークサービスを起動する必要がある場合は、手動で起動できます。

ネットワークサービスを起動するには

1. Veritas System Recovery Disk の [ネットワーク] パネルで [ネットワークサービスを開始] をクリックします。ネットワークへの接続を確認するため、ネットワークドライブをマッピングできます。

## Veritas System Recovery Disk 内部からのネットワークドライブのマッピング

リカバリ環境を起動した後にネットワークサービスを開始した場合、ネットワークドライブをマッピングできます。このマッピングによって、マッピングしたドライブを参照し、復元するリカバリポイントを選択できるようになります。または、修復環境からバックアップを作成すれば、ネットワーク上のある場所に存在する保存先を選択できます。

DHCP サーバーが存在しない場合、または DHCP サーバーが利用不能な場合は、静的 IP アドレスの指定が必要になります。Veritas System Recovery Disk を実行しているコンピュータのサブネットマスクアドレスの指定も必要です。

静的 IP アドレスとサブネットマスクを入力すると、リカバリ環境が使用できるようになります。ただし、コンピュータ名を解決する方法はありません。[コンピュータの修復] ウィザードまたは Recovery Point Browser 実行している場合は、IP アドレス以外ではネットワーク上のリカバリポイントを参照できません。ネットワークドライブをマッピングすると、より効率的にリカバリポイントを検索できます。または、リカバリ環境内から作成するリカバリポイントの保存先として、マップしたネットワークドライブを使うこともできます。

Veritas System Recovery Disk 内部からネットワークドライブをマップするには

1. Veritas System Recovery Disk の [ネットワーク] パネルで、[ネットワークドライブのマップ] をクリックします。
2. リカバリポイントが保存されているコンピュータの UNC パスを使って、ネットワークドライブをマップします。たとえば、`\\computer_name\share_name` または `\\IP_address\share_name` のように入力します。  
Veritas System Recovery Disk のコンピュータを修復ウィザードまたはコンピュータのバックアップウィザードからネットワークドライブをマッピングすることもできます。

## ネットワーク接続の設定

[ネットワーク設定] ウィンドウにアクセスし、Veritas System Recovery Disk 環境で実行するときのネットワークを設定できます。

ネットワーク接続を設定するには

1. Veritas System Recovery Disk 環境で、[ネットワーク]、[ネットワーク接続を設定] の順にクリックします。
2. ネットワークサービスの起動を求めるメッセージが表示されたら、[はい] をクリックします。

## 静的 IP アドレスの割り当て

ネットワークドライブまたはネットワーク共有で見つかったリカバリポイントを復元できます。ただし、リカバリポイントにアクセスするためにドライブをマッピングしたり、ネットワークドライブやネットワーク共有を参照したりすることはできません。利用可能な DHCP サービスが存在しないために、このようなエラーが発生することがあります。このような場合、修復環境を実行しているコンピュータに固有の静的 IP アドレスを割り当てることができます。これにより、ネットワークドライブまたは共有にマッピングできるようになります。

静的 IP アドレスを割り当てるには

1. Veritas System Recovery Disk 環境で、[ネットワーク]、[ネットワーク接続を設定] の順にクリックします。
2. [ネットワークアダプタの構成] ダイアログボックスで、[次の IP アドレスを使用する] をクリックします。
3. 復元するコンピュータに、固有の IP アドレスとサブネットマスクを指定します。指定するサブネットマスクがネットワークセグメントのサブネットマスクと一致していることを確認します。
4. [OK] をクリックします。

5. **【閉じる】** をクリックして、リカバリ環境のメインメニューに戻ります。
6. **【ネットワーク】** パネルで **【リモートコンピュータに対して ping を実行】** をクリックします。
7. ネットワークセグメント上の ping 先のコンピュータのアドレスを入力します。
8. **【OK】** をクリックします。アドレス方法としてコンピュータ名またはコンピュータ名とドメインを指定した場合は、コンピュータから返された IP アドレスを記録しておきます。ストレージコンピュータとの接続が確立したら、**【ネットワークドライブのマッピング】** ユーティリティを使用して、リカバリポイント保存場所にドライブをマッピングできます。

## リカバリポイントのプロパティの表示

Recovery Point Browser を使用して、リカバリポイントのプロパティを表示できます。

リカバリポイントのプロパティを表示するには

1. 次のいずれかを実行します。
  - Veritas System Recovery 22 の **【表示】** メニューの **【ツール】** をクリックします。 **【Recovery Point Browser を実行】** をクリックします。
  - Windows の **【スタート】** メニューで、 **【プログラム】** 、 **【Veritas System Recovery 22】** 、 **【Recovery Point Browser】** の順にクリックします。
2. Recovery Point Browser のツリーパネルで、表示するリカバリポイントのファイル名を選択します。
3. 次のいずれかを実行します。
  - **ファイルメニュー** で、 **【プロパティ】** を選択します。
  - リカバリポイントのファイル名を右クリックし、 **【プロパティ】** をクリックします。

## リカバリポイントのプロパティ

次の表は **【リカバリポイントのプロパティ】** ダイアログボックスで利用可能な情報を記述したものです。このダイアログボックスは **【Recovery Point Browser】** から利用可能です。

表: リカバリポイントのプロパティ

| オプション      | 説明                                  |
|------------|-------------------------------------|
| 説明         | ユーザーが入力したリカバリポイントの説明を表示します。         |
| サイズ        | リカバリポイントのサイズ (MB) が表示されます。          |
| 作成日時       | リカバリポイントの作成日時が表示されます。               |
| 圧縮         | リカバリポイントで使用されている圧縮レベルが表示されます。       |
| 複数のファイルに分割 | リカバリポイントが複数のファイルに分割されているかどうかを識別します。 |
| パスワード保護済   | 選択したドライブのパスワード保護の状態が表示されます。         |

|                 |                                                       |
|-----------------|-------------------------------------------------------|
| 暗号化             | リカバリポイントで使用している暗号化の強さが表示されます。                         |
| バージョン           | リカバリポイントに関連付けられているバージョン番号を表示します。                      |
| コンピュータ名         | リカバリポイントを作成したコンピュータの名前が表示されます。                        |
| Restore Anyware | リカバリポイントに対して Restore Anyware を有効にしているかどうかを識別します。      |
| 検索エンジンのサポート     | リカバリポイントに対して検索エンジンのサポートを有効にしているかどうかを識別します。            |
| 作成者             | リカバリポイントの作成に使ったアプリケーション (Veritas System Recovery 22)。 |

## リカバリポイント内のドライブのプロパティの表示

リカバリポイント内部のドライブのプロパティを表示できます。

リカバリポイント内のドライブのプロパティを表示するには

- 次のいずれかを実行します。
  - Veritas System Recovery 22 の **【表示】** メニューの **【ツール】** をクリックします。  
**【Recovery Point Browser を実行】** をクリックします。
  - Windows の **【スタート】** メニューで、**【プログラム】**、**【Veritas System Recovery 22】**、**【Recovery Point Browser】** の順にクリックします。
- Recovery Point Browser のツリーパネルで、表示するドライブが含まれているリカバリポイントのファイル名をダブルクリックします。
- ドライブの名前を選択します。
- 次のいずれかを実行します。
  - ファイルメニューで、**【プロパティ】** を選択します。
  - リカバリポイントのドライブ名を右クリックし、**【プロパティ】** をクリックします。

## リカバリポイント内のドライブのプロパティ

次の表は **【リカバリポイントのプロパティ】** ダイアログボックスで利用可能な情報を記述したものです。このダイアログボックスは、リカバリポイント内部のドライブを選択するときに **【Recovery Point Browser】** から利用可能です。

表: リカバリポイント内のドライブのプロパティ

| オプション    | 説明                                    |
|----------|---------------------------------------|
| 説明       | ユーザーが入力したリカバリポイントの説明を表示します。           |
| 元のドライブ文字 | ドライブに割り当てられていた元のドライブ文字を表示します。         |
| クラスタサイズ  | FAT、FAT32、NTFS ドライブのいずれかで使用しているクラスタサイ |

|               |                                                     |
|---------------|-----------------------------------------------------|
|               | ズ（バイト）を表示します。                                       |
| ファイルシステム      | ドライブで使用しているファイルシステムの種類を表示します。                       |
| 基本/論理         | 選択したドライブのドライブ状態として基本パーティションまたは論理パーティションのいずれかを表示します。 |
| サイズ           | ドライブの総サイズ（MB）を表示します。<br>使用領域と空き領域の両方が含まれます。         |
| 使用領域          | ドライブ内の使用領域の容量（MB）を表示します。                            |
| 未使用領域         | ドライブ内の未使用領域の容量（MB）を表示します。                           |
| 不良セクタが含まれています | ドライブ上に不良セクタがあるかどうかを示します。                            |
| 正常に静止しました     | リカバリポイントが作成されたとき、データベースアプリケーションが正しく静止したかどうかを示します。   |

## サポートユーティリティについて

Veritas System Recovery Disk 環境にはサポートユーティリティがいくつかあります。ベリタステクニカルサポートは、ハードウェア問題のトラブルシューティングの際に、これらのユーティリティを使用するように指示させていただくことがあります。

ベリタステクニカルサポートに問題解決の支援を求める場合は、これらのユーティリティによって生成された情報を提供する必要があることがあります。

**注意：**これらのツールは、ベリタステクニカルサポートから指示があった場合にのみ使ってください。